

報道機関各位

資料提供 令和元年10月17日

生活環境部自然保護課 調整・自然環境班

担当者 副主幹 関口 淳也

電話 018-860-1614

美の国あきたネット掲載  有・無

## 秋田県版レッドリスト 2019（哺乳類・昆虫類）について

県では、令和2年3月に発刊予定の「秋田県版レッドデータブック 2020 動物Ⅱ（哺乳類・昆虫類）」に掲載する種をまとめた「秋田県版レッドリスト 2019（哺乳類・昆虫類）」をこのたび公表しましたのでお知らせします。

### 1 目的・経緯

- 県では、絶滅危機にある野生動植物の現状を明らかにし、多くの人々へ理解を広めるとともに、自然環境や希少な動植物の保護を図るため、「レッドリスト (RL)」\*及び「レッドデータブック (RDB)」\*を作成しています。
- これらの資料を作成するため、野生動植物の分類群（哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、淡水魚類、昆虫類、陸産貝類及び維管束植物）毎に専門家による検討委員会を設置し、生息や生育状況について評価を行っています。
- 野生動植物の生息・生育状況は刻々と変化するため、平成21年度から分類群毎に評価の見直しに着手し、このたび、哺乳類及び昆虫類の評価作業が終了したことから、『秋田県版レッドリスト 2019（哺乳類・昆虫類）』として取りまとめたものです。

※レッドリスト：生育する野生動植物について、生物学的観点から個々の種の絶滅の恐れを科学的・客観的に評価し、その結果をまとめたもの

※レッドデータブック：レッドリストに選定された野生動植物の分布状況、生育環境、絶滅危機の要因、保全対策などをまとめて編さんしたもの



◀ 右から順に

・秋田県版レッドデータブック 2009

【蘚苔類・地衣類】

・秋田県版レッドデータブック 2014

【維管束植物】

・秋田県版レッドデータブック 2016 動物Ⅰ

【鳥類・爬虫類・両生類・淡水魚類・陸産貝類】

## 2 見直しにより明らかになった点

### (1) 哺乳類

- 哺乳類のレッドリスト選定数は、秋田県版 RDB2002 では 30 種（留意種 5 種含む）でしたが、見直しにより秋田県版 RL2019 では 27 種（留意種 1 種、継続観測種 4 種含む）となりました。
- 近年の風力発電事業の県内進出に伴い環境影響評価調査が増加し、県内に生息している哺乳類の生息確認データが蓄積されたことなどから、絶滅の危険性が低いと判断されていたニホンジネズミ、ニホンリス、ムササビ、アカギツネがリストから除外されました。
- 新たにノレンコウモリの生息が確認されたことにより「絶滅危惧 I B 類」として追加しました。
- ニホンジカは、秋田県版 RDB2002 では「絶滅種」でしたが、平成 21 年度から県内でも目撃情報が寄せられはじめたことなどから、常にモニタリング調査などにより生息動向を把握し適正に管理していく必要がある「継続観測種」とされました。

### (2) 昆虫類

- 昆虫類のレッドリスト選定数は、秋田県版 RDB2002 では 189 種（留意種 8 種含む）でしたが、見直しにより秋田県版 RL2019 では 307 種（留意種 2 種含む）となり、選定種が大きく増加しました。
- カトリヤンマとオオキトンボを「絶滅」に追加したほか、秋田県版 RDB2002 と比較すると、「絶滅危惧」と評価された種が新たに 51 追加され、15 種がリスト外となりました。
- 要因として、
  - ・各種開発行為等による森林伐採
  - ・埋め立てによる草地や湿地の消滅
  - ・河川改修による護岸整備
  - ・風力発電の進出による高原や海岸砂丘の改変により生息地が消失したり環境が悪化などが考えられます。
- 生息条件の変化によっては「絶滅危惧」に移行する要素を有する「準絶滅危惧」や、採集記録が少なく生息状況等が不明のため、絶滅の危険性を判断することができない「情報不足」とされる種も大きく増加していることから、十分な調査と今後の推移に注視していく必要があります。

\* レッドリスト（哺乳類・昆虫類）及び秋田県版カテゴリ定義は、県のホームページに掲載しています。

美の国あきたネット <http://www.pref.akita.lg.jp/>

美の国あきたホーム > 組織別 > 生活環境部 > 自然保護課 > 最新情報・自然環境